

スレイブ アスナ オビデマード

SLAVE ASUNA ON-DEMAND
SWORD ART ONLINE ASUNA YUUKI ONLY FANBOOK 002 // BOOK-2 PLEASURE SLAVE.



This book is only for NTR manlaxl



002

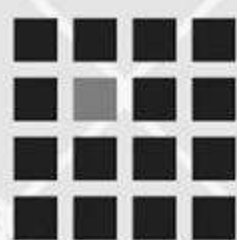
SLAVE ASUNA ON-DEMAND



スレイブ アスタ オビテマード

002

SWORD ART ONLINE ASUNA YUUKI ONLY FANBOOK 002 // BOOK-2 PLEASURE SLAVE.



DIEPPE
FACTORY
DARKSIDE
2012
WINTER







PREFACE

あるひーぬでございます。
ALOアスナNTR本後編でございます…が、
なんだがNTRとはちょっと趣が変わってきた気も…(;▽:)

とまれ本人NTRド素人なりにそのつもりで描いてまわんで
どうぞ読んでやってくださいませm(__)m



Book.2

pleasure
Slave

あ……これは……



う……

俺は……いつたい……



こんな時に
「ムネムネ」は

英雄にしてははずいぶん
おめでたいねえ

ふ……や……
目が覚めたか



お前……須郷か？

妖精王オベイロン様と
呼びたまえよ

キミのようなクズが
這いつくばって謁見
できただけでも光栄
に思え

……といかんいかん



どうしたんだい
SAOの英雄も……ごでは
無能なガキ……て訳かい？

く……う



君にはあちらの方が
効果的だったな

な……にを

ククク……まあ
すく……わ……か……

!!?

＃ウーン

そんな.....

どうかな...この服
懐かしさよこめね...

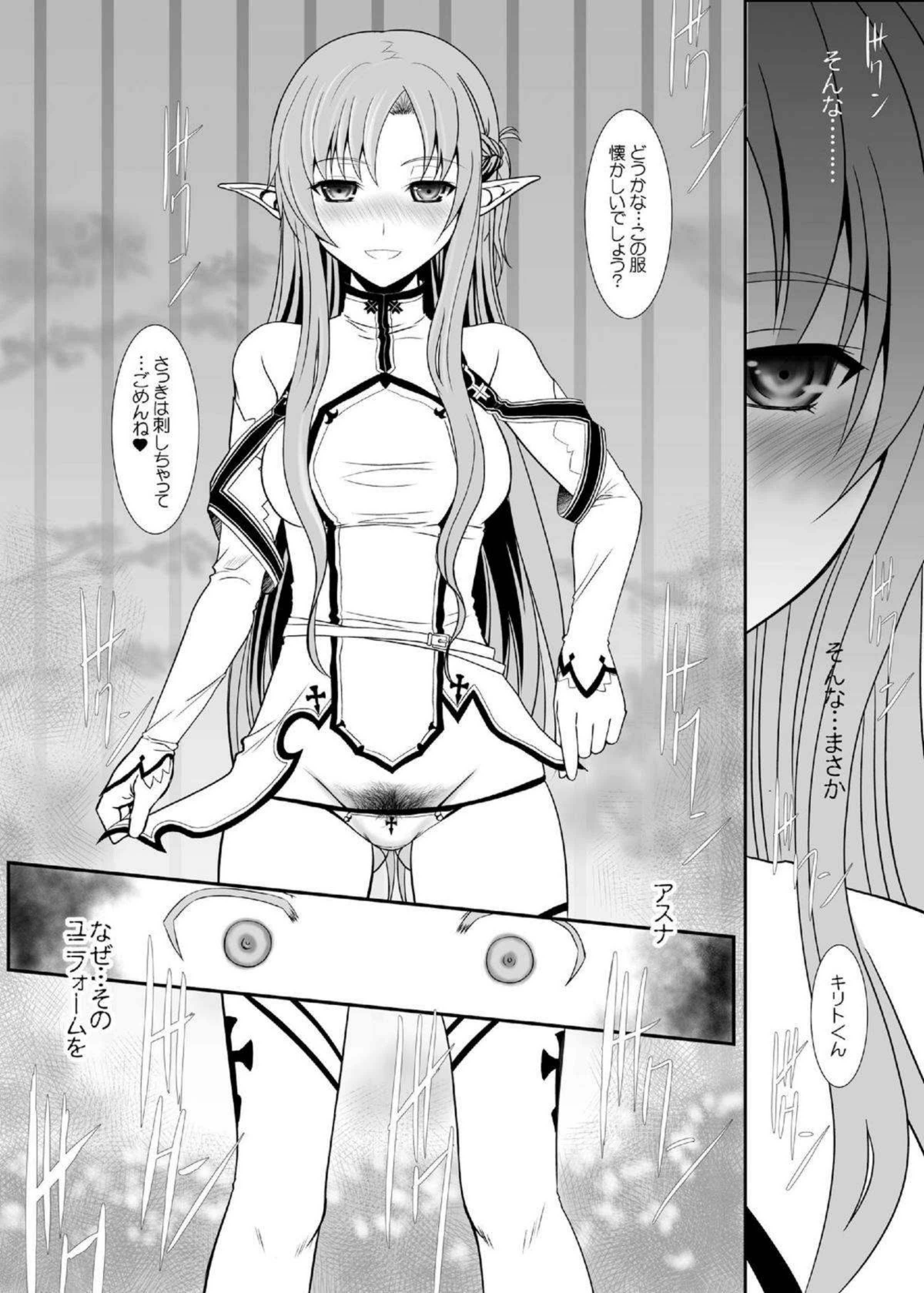
なつきは刺したぞい
...ごめね♥

そんな...まさか

キコト...

アスナ

なぜ...その
ヨラオームを





クフ…クフ…どうだい
素敵な僕の演出は？

SAO時のアバターを
掘り出したんだのね

あん♡

君の愛しいアスナ君の
今を知るにはこの方が
うっつけけだと思ってる



さあ
ティーターア

は♡



小蠅な君がごまかして
たどり着いたご褒美に
楽しんでいこうね



あ…アスナ…

キリッ

まだボーッとして
してる顔だね

なんで…あんな事を
それに…これは…

なんで…大事な
ご命令だったから
仕方なかったんだよ

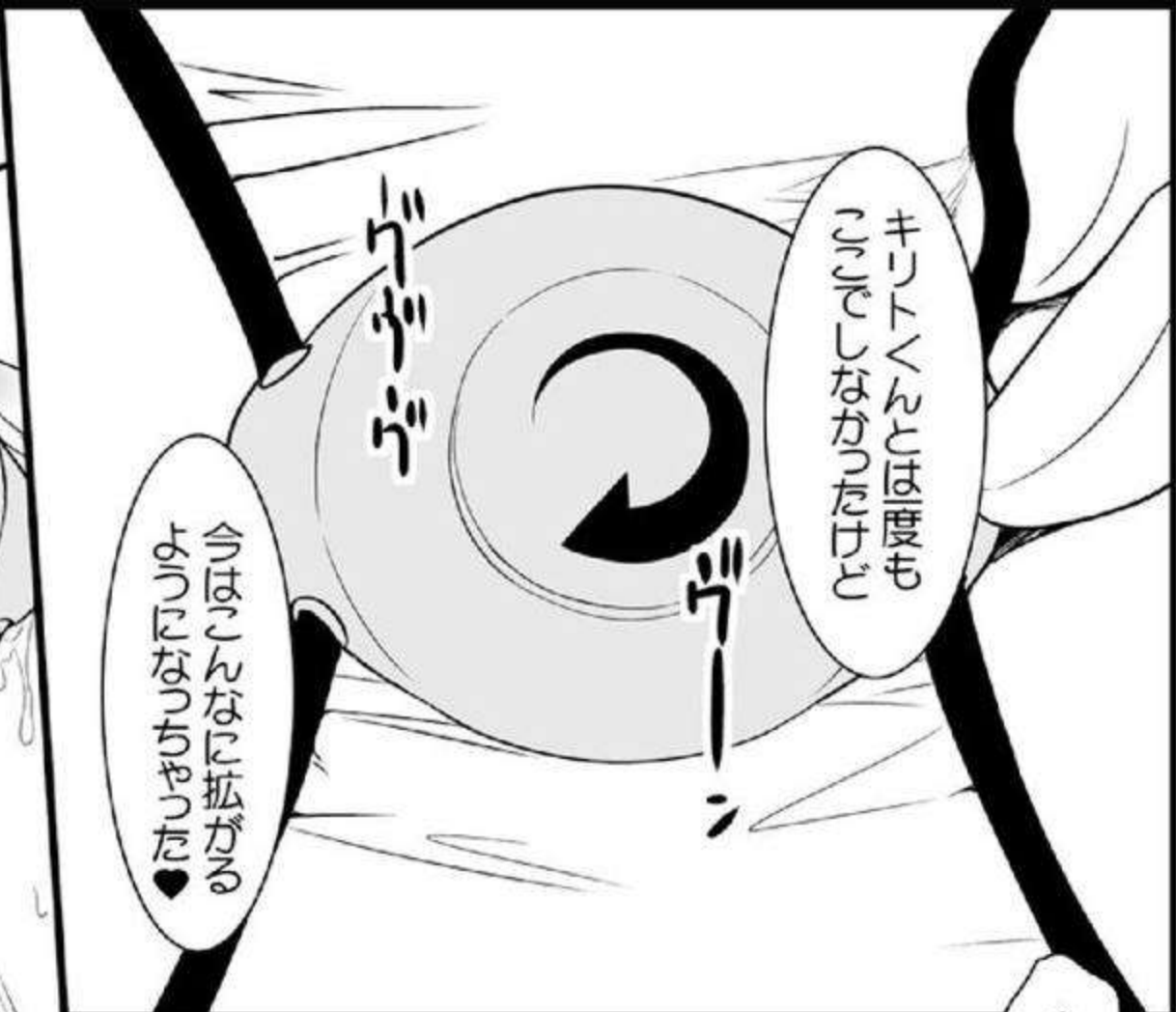
そんなことより

ほらほら
ちゃんと見えるかな？

ほらほら

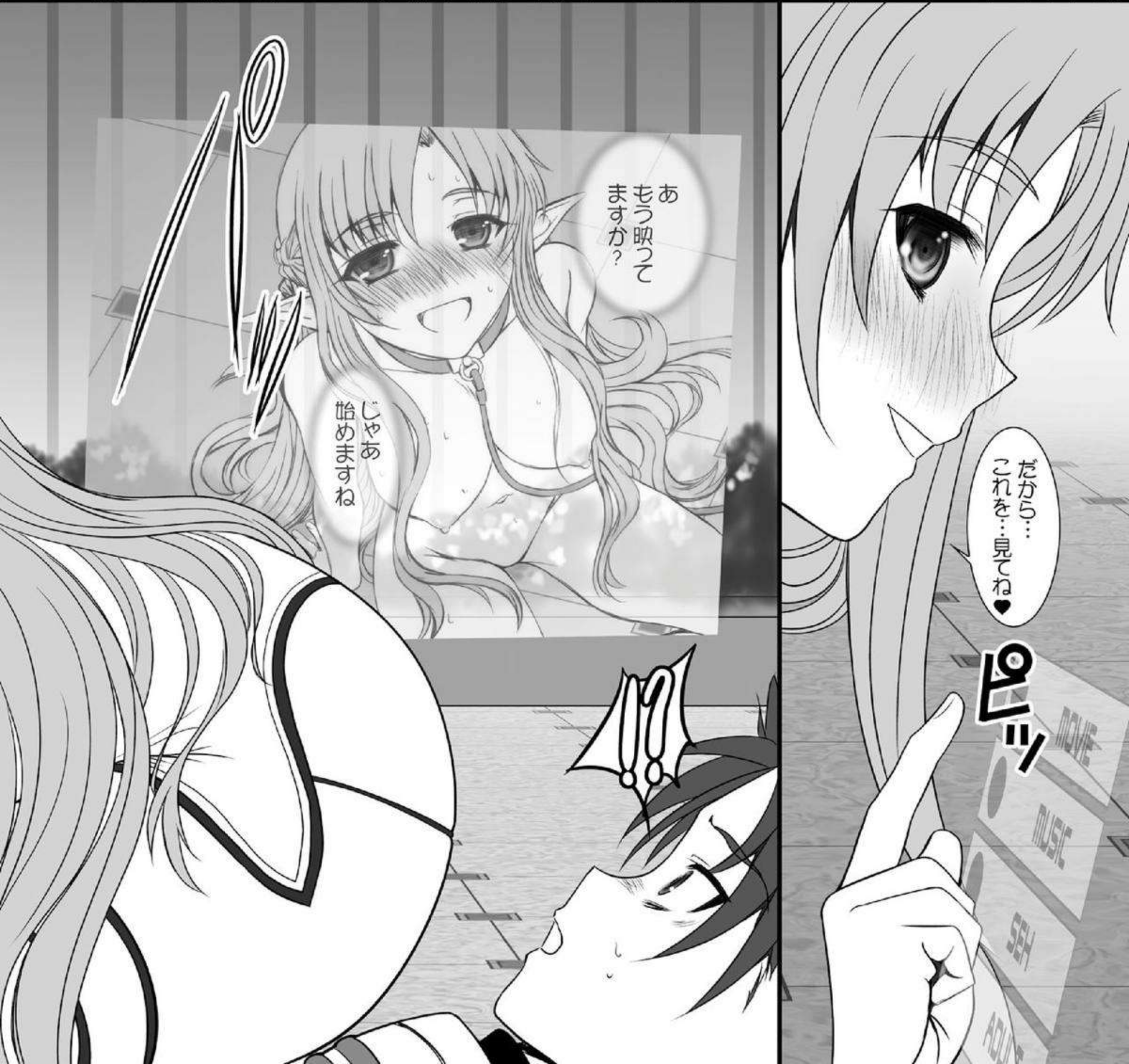
私のお尻…ケツの穴
ぶつと栓がずいぶん
ハマっちゃってるんだよ







ご主人さまのご命令で
わたしがこのように
馴けて頂いていたか
教えてあげなさいって…

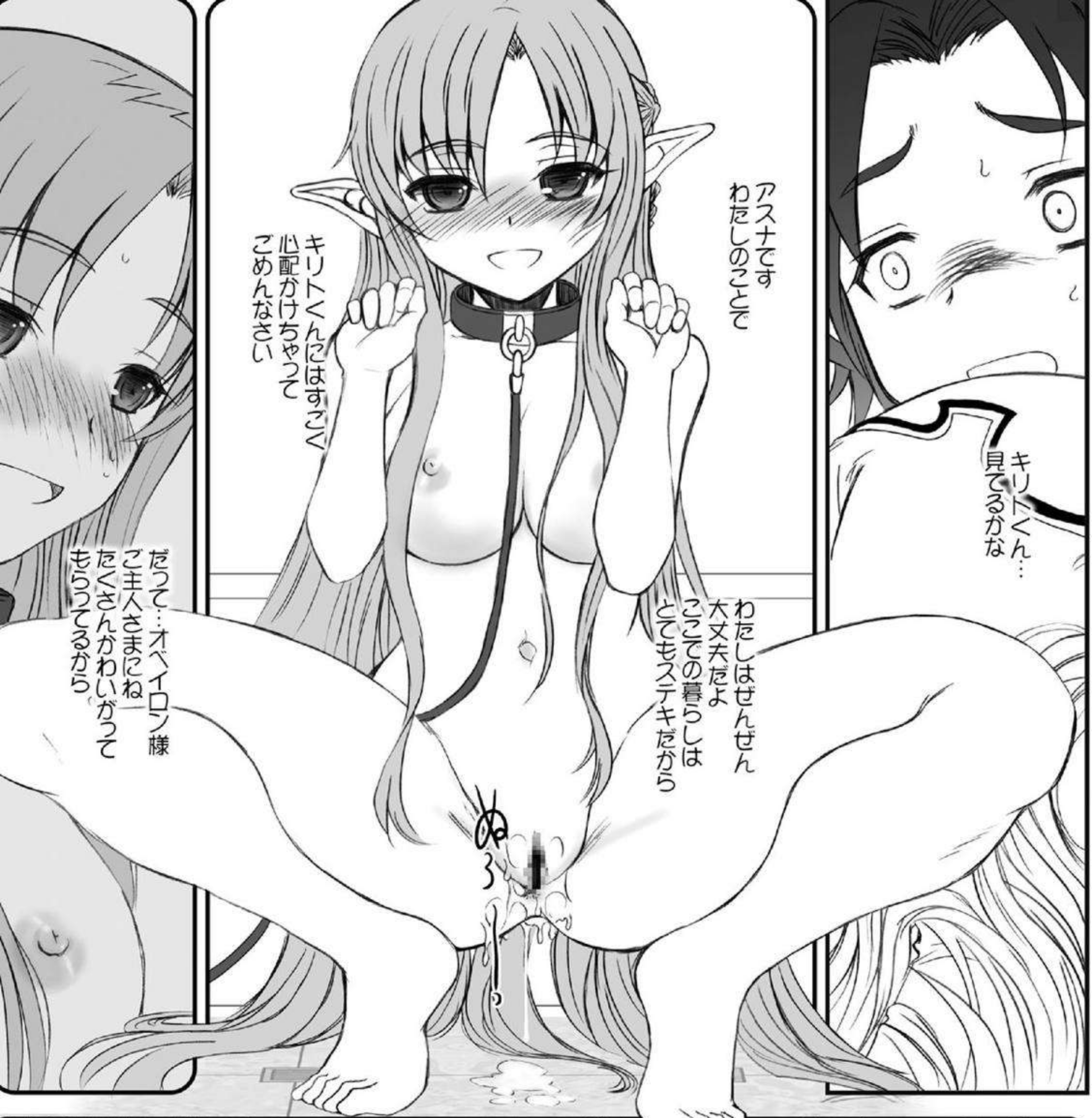


あ
もう映って
ますか？

じゃあ
始めますね

だから…
これを…見てね♥

ウツ



アスナです
わたしのこぶで

キリトくんにはおまじい
心配かけちゃって
ごめんなさい

キリトくん…
見てるかな

わたしはぜんぜん
大丈夫だよ
こぶでの暮りしは
とてもステキだから

だって…オベイロン様
ご主人さまにね
たくんがわいがって
きりつてから



でもすくそれが
過ちだったと
気付かされたの

ご主人さまの
チノポには
逆MIONないで

そしてわたしは
ご主人さまに
飼って頂くことを
誓ったの

最初の頃のわたしは
ご主人さまにすく
反抗的だったわ

それからはいくとも
ステキな時間だった

自分でも知らなかった
わたしのキモチいい
ところをたくさん
知ることができた

わたしはとて
初めての場所だった
お尻の穴...

お尻を主人さまは
じゅわん...じゅわんは
やれ...やれ...
激しく...
焦らされた...
あー

時間をかけてたっぷり
開発していただいて

ただの排泄用だった穴...
ここでは飾りですが
なかつたこのケツ穴も

交尾専用のケツマンフレ
貰って頂いたの





食事もね…ご主人さま
手すからわたくし専用にお作りになった工サを
与えて下さったわ



夢中でむさぼり食い
ながらも睡回りの
疼きが止まらなくて

わたくし好みに味付け
された中…かすかに
感じるご主人さまの
精液の味



食事の余韻に浸る
ご主人さま…すい
それはやいねわ



でもね…これはまだ
オードフルみたいなもの



こうして常に
ご主人さまのことが
体に…心に刻み
つけられていくの



アバターのお身では
ありえないはずの便意

そして妊婦のように
膨らんだお腹から
ひり出されるのは



食事すら
調教の環なの



きつなの…



うんごとはまるで違う
わたしのお尻を蹂躪し
調教するだけの
ゼリー状のティルトー



わからなく
なっちゃったあ ♡

これが食事のたびに
繰り返され...いつしか

食事がいたくて
ひり出しているのが

ひり出したん
食事しているのが

びく

びく

びく

びく

びく



うれしいな

やじゅきしてんぞん
見てもらえたあ ♡

どうだった
キリトくん?
わたし...ちゃんと
かわいがって
頂いてたでしよっ?

ニターニア



ああ…ステキ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

おちんぼ
ちんぼ

はっはっ…わんわん
おしおしおしおし始めた

もじ書の祖チンポの
頭から飛んできたチンポのたまご



まったく…チンポを
見ると見境ないな

あんなにチンポが
出る人…



あ



こんな下品なシラ
君にも見せて
いたのかな



ジュンタスギコトノ

アスナ...なんでそんな
うれしそうなんだ

ちゅるるる



アスナ...



なんでそんな奴のを
おいしそうにしゃぶるんだ

すいびんおいしそうに
しゃぶると思わないかい?



ふ...ふんふんを
わすわすしゅん...



そうだ...俺のを
してるときもー



んじかい...



ひやめ...え

ちゅば、
ちゅば、

はるひやんから
みひやんくし

だがねえ
彼女の本性は
こんなものじゃ
ないよ

まったく…
汚れてもいないのに
放っておくと半日も
ケツ舐めし続けてしまっ

女々も其の飽きないもの
と感心するわねえ

そんなこと…
そんなところを
俺には度だつて…

おかげでいつも尻周りが
涎まみれだよ…ウクウク

よく見たまえ

タマを転がしながら
肛門をいじり始めた

自分が感じるところを
自然に奉仕するようにな
ったみたいだが

ケツ穴あ

おケツ

んやー

んん

くくに







さあアスナ

自分の手で
キリトくんの前で
出てくるよ

はま
はま
はま



はま



キリトくんも知らない
私の...ことを



キリトくんの...

キリトくんの...



そして…同時に魂まで抜けてしまったかのような彼女のだらしない顔…

どうやって腹に収まっていたのか判らないほどの人ではありえないサイズのものだった

だがー

そんなやりとりを聞きながら…過去の記憶を蘇らせていた

見て…キリト…私の…おっぱい…

おっぱい…

こんなおっぱいも伸びきったおっぱい…おっぱいの毛もいっしょに生えちまうって

ダメ…暗くしてないごかさない

だっ…恥ずかしいんだもん

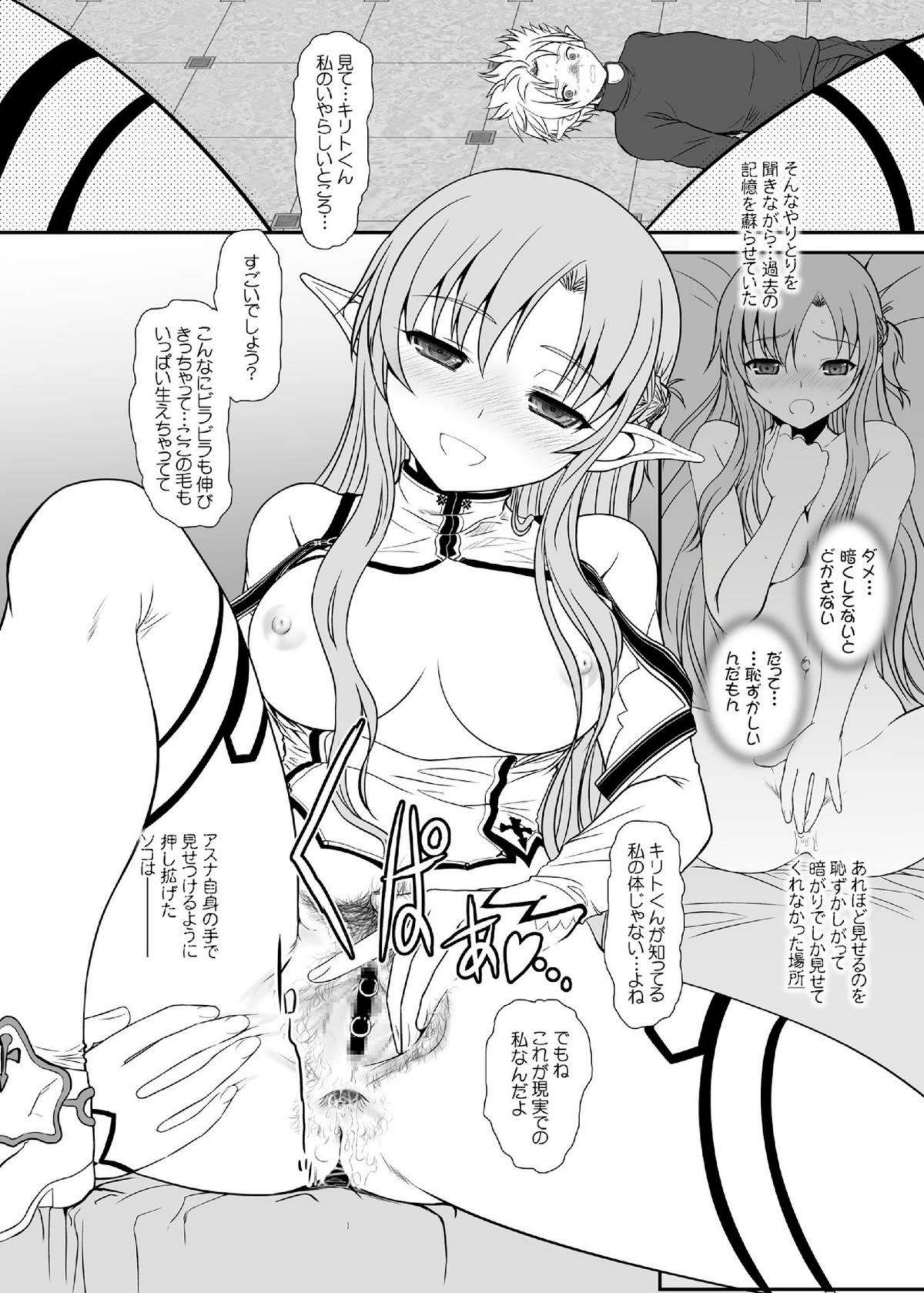
あれほど見せるのを恥ずかしがって暗がりで見せてくれなかった場所

キリトくんが知ってる私の体じゃない…よね

でもねこれが現実での私なんだよ

アスナ自身の手で見せつけるように押し拵げたソコは

おっぱい





でも…そんな私をご主人様は受け入れてくれた

私も自分のことが下品であまり好きじゃなかった

下品なままがいい♡
言ってくれたの♡

どう? 幻滅した?

ほとんど手入れしなくてお尻にまで生えた陰毛…

いじりすぎて厚くよじれた
ドブドブに

みんな本当の私…
結城明日奈の
実像なの



それに

彼女自身のおねだりで
現実の彼女の肢体も
充分参考にできたしねえ

そう…そして僕が彼女の
真実を忠実に再現して
あげただよお

広げちゃだめですよ



この子は君が思っている
以上に可愛くはないよ

リアルで僕に見られること
思ったのか…股間はもう
あふれ出したマン汁で
ぐちよぐちよだったよ

ケツ毛に絡まった白い
本気汁…とてもキレイで

キミにも見せたかったわえ
ク…ク…ク…



ああ…やだ…あ
恥ずかしいです
それは言っちゃだめえ

アスナの
リアルまんごを
知ってるのは
ご主人さまだけ
なんですからあ♡



せつかんだから
ここの手入れされて
いないフキ毛も



ちやあんと再現
してあげたんだよ

ぴちゃ

ぴちゃ

あー

あー

あー



あっ



キリトくんのあちんぽ
そのきより大きくなつたよ



ふふ…君の下品マント
をずいぶん気に入って
くれたみたいだね

はるん
おはるんがーごすか



ご主人様あ…
もうももも

もう我慢できないのかい

だっ…ごももごもも
すっく切ないごもも

キリトくんを興奮おかせ
おちんぽのきくせたい
からあ…だからあ



キリトくん
ほろごきを…



あっ…だめ

この「アス」を
見てみなよ



惨めさと絶望に押し
つぶされそうになる

これはねえ…僕ではなく
アスナ自身のリクエスト
なんだよ

言わないでっ

そんな俺に
奴はまだ



キントウは必ず
くる来なん

でもこれまでもまじや
きし我儘できないから
貞操帯がわいせつしなね

健気だねえ…本当に妬ける
今の君の気分と同じかもねえ

キントウは必ず
くる来なん

ご主人さま…焼きもち
とかってちよつと予定
狂っちゃったけど…



ご主人さまひどいっ
内緒って言ったのに

まあいいじゃないか
軽い焼きもちだよ

せ…じせ…
じせ…じせ…



ほら取れた

あ…



ん…

ん…ん…
ん…ん…



せ…せ…
聞いしな



私……結城明日奈……は
キリトくんの奥さんなのだ

ご主人様のデカちゃんぽを
負けて服従してしまつた
ケツマン「奴隷……です！」

これから……番愛して
キリトくんの目の前で……

ご主人様におちんぽを
ハメて頂ぎ……マン「奴隷に
スキル……アップするのを

最後まで見て……
頂ぎます

アハハハ

アハハハ
……アハハハハハ

アハハハハハ……
アハハハハハ……

アハハハハハ
アハハハハハ

アハハハハハ
アハハハハハ

アハハハハハ

アハハハハハ

アハハハハハ



今は奥…ポルチオが
スイッチだからねえ

ほら
スイッチだね



あー

はっはっは
スイッチだね

あー
スイッチだね



おまんこまじ

あー
スイッチだね

あー
スイッチだね

チンポっちゃんほで
ゴソゴソっれされへっ



イヤッ ほんじゃあ
チンポすけいせい

しきゅー
ポルチオいいっ



Hi Hi Hi



あひゃ

Hi Hi Hi
Ahhhh

凛々しく強く聡明な
アスナと違って



ぞく

はっ

はっ

ゅん

ほんじゃあ
おチンポだけわすれ

ああ...
めい... 抜けさせ

Nonono

アスナ... そっくりの娘が
... 何か... 言ってる...



んんんんん

あ... あ... あ...

だらしなく・下品で...
淫猥な女の... 子が...

んんん... ちんぽ...
いれ... ちんぽ...
んんん... ちんぽ...
んんん... ちんぽ...



んんん

ほんじゃあ... あんな小蠅
な... ちんぽ... もいいだろ



このまま膣出し
するからなっ！

いいよ...こんなのは
もっ...

びびん
びびん

膣出しされたいっ
膣出しでイキたいっ



早くロクマンアゲン...

あーっ
あーっ

それスゴイ
それイイっ



ユイ...ユイはどこ
行ったんだ...ユイ...

早く出ていよ...
そして一人で

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ

ガッ
ガッ



お前さん...なにが...
おめね...おめね...
おめね...

キリトさん...

私の種付けおまんこ
ちゃんと見てくれたか?

キリトさん...

アスナを...
探さなくちゃ

キリトくん
まだ終わってないよ

うるさいなっ

見て...

もっいいって
言ってるだろ

俺はユイと一緒に
アスナを



君も度々くさいは想像
したんじやないかい？

まあ…せつかくだからね
将来僕の種類を孕んだ妻の
軽いシミュレーション…こ
うい訳さ

あん
またあ
はっ

はっ

ぬふ
ぬふ
ぬふ



探し…に

うわああああ



あやだあ…
あまんこが
スススス

もともと妻といふものは
従順な肉奴隷のほうか
ぶさわしいけとねえ

ほら…ほら…するなよ
こつちで付き合ってくれた
彼にもお礼をしてあげなよ

HIP



愛しい恋人相手に
その反応はないだろっ

あまんこ
せー
あまんこ
せー
あまんこ
せー

はい

キリトくん…こんな
わたしを愛してくれて
今までありがとうね

これ…キリトくんが
見たがうた
ハメピースだよ

キリトくんのチンポじゃ
ないけど…やっ
しあげられたあ

わたし…今でも
キリトくんが番好き

ちゅ…だめなの

わたし…もう
ご主人さまの
所有物だから

ご主人さまの子種を
孕まないといけないの

だから…いめんね
あわびて…これ

アッ
アッ

ふんふん…これも
キリトくんのせいで
さわれたおもしろい姿

くっくっ…
見せてあげられた

それにね…くっくっして
孕んでみてわかった

ご主人さまの…
子供が欲しいって

子宮が…メスの
本能がそうしちゃう…
疼いちやうの

じゃあ目が覚めたら
早速孕ませてあげようよ
そして結婚式では
ボテ腹新婦だねえ

精液たくさん…何度でも
孕むまでアスナに種付け
おまんこしてくださいね

はい…ご主人さま…
すぐ欲しいです

そうか…僕の子が
そんなに欲しいのか

SAOはシステム
的のためだ…

はい…これステキ
おれくっく…

あれ…?

やっほ…

ホンモノのアスナ
だった…よ

面白そうだから
こいつも洗脳して
明日奈の護衛兼
従僕として飽うのも
面白いかもねえ…

ククク

わあ…おじいさま
キリトくんが
いつしよなんだあ
…うれしいなあ

ご主人様あ…
ありがとうございます
ございます

大好きですっ…
愛してますっ

クク…いいんだよアスナ

だから君も彼に
見守られながら
安心して僕の種を
孕むんだよ

ほっ

続きは
2月サングリ
予定です。

もうちょっと
続きます。



おくづけ

ここまで読んで頂きありがとうございました。

今回は前後編通してifの話…ギャルゲー形態でしたなら最悪のバッドエンドの一つっていう感じでこの話は作られました。当然こんなストーリーは本編と違う別のアトラクタフィールド@シュタゲの彼方にあるかどうかってくらい極地にあるだろう話なので、この話を読まれて心を毒されました際には本編4巻後半部などを読み返されて、カタルシスに浸りつつリフレッシュされるがよろしいかと存じます。

後編はオベイロンの手に堕ちたアスナがキリトの目の前でNTRてゆく…という展開を狙ったんですが、目の前で堕ちていく過程ではなく、すでに堕ちきらせた状態ってのはちょっと失敗だったかもですね。

実際のところ、こういった話を作ったのは初めてなもので、当初はオチというかエピローグにスティング風どんでん返しな逆転劇を用意して…というのも考えていたんですが、どっちつかずの中途半端は却ってよろしくないとのアドバイスを友人に頂いたりもして、結局そのまま最後まで救いのない方向へと突っ走ってしまいました。正直…堕ちていくというか、アスナがじわじわと心変わりしていく様子を力不足ゆえに描き切ることができなかったのは非常に心残りであります。リベンジの機会が今後来るかどうかは判りませんが、もしまた見かけることがありましたら、どのくらい改善されたか生温かい目で見てもらえたら幸いです。

…とはいえ、今回描ききれなかった部分がまだ少し残ってたりもするのでもうちょっと続きを描きたいなという気持ちがくすぶってたり(汗)

もしまたこれの続きっぽいのが出てましたらよかったら読んでやってくださいm(__)m

それでは、こっち名義ではそれほど発行頻度が高くはないですが、またどこかで見かけましたらどうぞよろしくお願いします。

あるぴーぬ2012

P.S シンセシス・フィフティ (あれ?) が無性に描きたいです…。

※なお、表紙のアスナがアルフでもウンディーネでもなくKoBのユニだったのはこういう事だからでした。それと、ちょっと胸増量し過ぎたかも…まあオベイロン様の趣味ということで(汗)

COLOPHON

スライヴ アスナ オンデマンド
#002. PLEASURE SLAVE.

◇2012.12.31初版発行◇

◇発行 DIEPPE FACTORY Darkside◇

◇印刷 POWERPRINT◇

◇18歳未満の購読及び所有等の禁止◇
禁無断転載

◇Mail// alpine@dieppefactory.com◇

◇web// <http://a442b.blog94.fc2.com/>◇



Σ
Λ
Ο
ΣΛΑΒ ΟΥΔΕΤΑΛΩ

002


DIEPPE
FACTORY
DARKSIDE
2012
SUMMER